

牧師室から (2021.10.10)

海老名教会の会報「えびな」に紹介されている図書の中に、「くたびれないごはんづくり」という本がある。その本が教会に置いてあったので、開いてみた。

最初のページを読むと、「60 半ばを過ぎたころから、食事づくりがおっくうになった」、「配偶者の体調不良をきっかけに、ひとりでの食事が多くなった」「買い物に行くこと自体が大変になった」と思い始めた人たちに「手をかけておいしくから、かんたんでおいしくに」、と発想の転換のときであることを言っている。そして、本の中に何人かの料理家たちによる多彩なレシピが載っているが、そのとおりに作り方が簡単で完成された写真がとても美味しそうであった。毎日一品ずつ作ってみたいと思っている。

私は 60 半ばを過ぎてからではない、結構前から、なぜ人間は 3 食を食べるようになっているのだろう、2 食でいいなら楽なのにと呟いたことがある。朝昼晩大抵同じ時間、規則正しく食事をする習慣がある淳一牧師に対して、一人生活が長かった私は仕事に夢中になるとごはんの時間が遅れても気にしないほうで、結婚後そのことでしばしば衝突した。つい、我慢できなくなった淳一牧師は自分で作り始めることもあって、一所懸命に作ったのにも拘わらず、後始末や皿洗いが大変だと私から文句を言われる。

男の人は台所に入っただけではいけないという封建的な鉄則を持っていた父と暮らした母は妹の夫と淳一牧師が料理をしたり、皿洗いをすると微笑みながらも、うらやましいね、と何度も言っていた。年取ってから家事をし続けた母は疲れを訴えることが多くなったが、妹は結婚し、私は日本に来てしまった。後には父の看病も重なり母は大変だったのだろうと、そのときの母と同じくらいの年になってやっと気づかされている。

母のために韓国にもこのような本がないか探して見たくなった。

食欲が増す秋を迎えながら、皆さまも私もくたびれないごはんづくりで体が元気でありますように、そして、肉の糧だけではなく、先ず霊の糧が豊かにされることを祈っている。

(鈴木善姫牧師)